

コロナ禍における矢作ダム完成50周年記念事業 ～これまでの50年と51年目への歩みだし～

大野 実紗

矢作ダム管理所（〒444-2841 愛知県豊田市閑羅瀬町東畑67番地）

1971年3月に完成した矢作ダムは、2021年度で完成50周年を迎えた。

矢作ダム完成50周年記念事業実行委員会を立ち上げ、そこからさまざまな記念事業を計画し、実施してきた。新型コロナウイルスの感染拡大により、2022年2月11日に計画していた矢作ダム完成50周年記念式典は中止となったが、2021年度行ってきた様々な取組を紹介する。

キーワード：広報、周年、コロナ、流域、水源地域

1. はじめに

矢作ダムは、岐阜県恵那市（右岸側）と愛知県豊田市（左岸側）に跨がる放物線アーチ式コンクリートダムである。1966年6月に建設工事を開始し、5年間の年月を経て1971年3月に完成をし、昨年の2021年に完成50周年を迎えた。矢作ダムの水源地域の2市2村、関係利水者及び矢作ダム管理所は矢作ダム完成50周年という節目の年を迎えるにあたり、矢作ダム水源地域の歴史・文化・伝統を誇りしつつ、過去の自然災害やダムがもたらした恵みを振り返ることで、ダムの役割・効果を学び矢作ダムに関係する住民の意識向上を図りたいと考えた。また水源地域間の交流・活性化を図ることを目的に掲げ、「矢作ダム50周年記念事業実行委員会（以下「実行委員会」と呼ぶ。）」を設立し、完成50周年を記念する様々な広報活動に取り組んだ。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、イベント等の開催において様々な配慮・調整が必要であった。今回の報告では矢作ダム完成50周年記念事業の関連イベント等におけるコロナ対応の実態と、開催地である愛知県が、まん延防止重点措置の対象となったことで、式典を中止することとなったがその経緯と式典の代替措置についてまとめたものである。

2. 中止前の内容

(1) 矢作ダム50周年記念事業実行委員会

2021年4月27日に、図-1のとおり「矢作ダム完成50周年記念事業実行委員会設立総会及び第1回幹事会」を開催した。水源地域である愛知県豊田市、岐阜県恵那市、長野県下伊那郡平谷村及び同郡根羽村、関係利水者である愛知県企業庁及び中部電力株式会社の計7団体で実行委員会を組織し、総会において記念事業として完成50周年記念式典（以下「記念式典」と呼ぶ。）や地域主催の関連式典、矢作ダムをより多くの人々に知ってもらうため、集客が見込める施設（役所・ショッピングモール等）でのパネル展示、完成50周年記念ダムカードの作成及び配布、記念ロゴマークの作成等が議論された。どの団体からも「矢作川上下流のつながりを大切にしたい」「子どもたちに交流してほしい」という意見が多かったため、上下流の繋がりをキーワードに子供をターゲットとしたイベントを検討していくこととなった。

また、パネルや各種式典も、様々な水源地域のPRの場にもなるよう計画していくこととなった。



図-1 矢作ダム完成50周年記念事業実行委員会設立総

会及び第1回幹事会の様子

(2) イベント開催にあたり考慮した事項

2021年11月に水源地域の愛知県豊田市と岐阜県恵那市の2市等を開催地とした、WRC世界ラリー選手権が予定されていた。世界的なイベントであり、選手権開催にあたり事前のイベント等を含め多種多様な行事が既に予定されていたことから、2021年中の記念式典の開催を回避してほしいと両市より申し入れがあった。WRC世界ラリー選手権は、2020年から2022年の3年間の開催権利をラリージャパンが取得していたが、前年の2020年大会が新型コロナウイルスの感染拡大により中止となっていた。2021年大会が中止となった場合、2022年大会が最後の開催機会となることから、国際大会の主権権を無開催で返上することはできず、記念式典についても2022年度への持ち越しはできないと判断し、必然的に2022年1月から2022年2月の間に実施することとなった。

(3) 50周年記念事業の内容

a) 式典関係

50周年記念事業実行委員会設立総会及び第1回幹事会については、対面による会議形式で開催したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、第2回以降の幹事会は全て書面での開催となった。

記念式典は、2022年2月11日に豊田市福祉センターで開催することが決定した。また、式典で上映する映像（水源地域の魅力を紹介するため、岐阜県重要無形民俗文化財である中山太鼓の演奏や矢作ダムや水源地域の紹介映像、矢作川沿川の豊田市立西広瀬小学校の児童たちによって行われている矢作川水質調査に関する記録映像）の撮影、図-2の記念ロゴマーク作成や50周年記念のホームページ開設などの準備を行った。



図-2 記念ロゴマーク

b) パネル展示

パネル展示を下流域の5つの商業施設、水源地域及び下流域の8つの公共施設及び近隣の道の駅などの13の観光施設の合計26箇所で開催した。図-3のとおり、大型集客施設や役所、レクリエーション施設などの人通りの多

い通路や催事スペースを活用し、来客者が展示物を自由に見ることができるようにした。また、矢作ダムに関するパネルの他に、図-4のとおり矢作ダム水源地域の3D模型や紹介映像をループで再生した。



図-3 商業施設でのパネル展示の様子



図-4 3D模型と紹介映像をループ再生している様子

c) 50周年記念ダムカード

50周年の期間は図-5のとおり、通常のダムカードに加えて、完成50周年記念特別仕様のダムカードを制作及び配布した。配布開始より連日、問い合わせの電話が矢作ダム管理所へ殺到し、オークションサイトに高額で出品される事態となった。特別仕様のダムカードがプレミアム品とならないよう当初より大量印刷し、Twitter等で注意喚起を行ったが、オークションへの出品を防ぐことはできなかった。



図ー5 通常ダムカードと記念ダムカードを配布している様子

d) with dam night

ダム工学会のイベントである、with dam nightへ「矢作ダム50年のあゆみ」と題してWEB講演を実施した。その様子がYouTubeで同時に配信されたことから、多くのダムマニアへのアピールとなり、その後YouTuber（SiphonTV サイフォンTV）が矢作ダムに訪れ、矢作ダムへの取材の様子を図-6のとおり、YouTubeへ全3回に分けて公開することとなった。



図ー6 YouTubeでの公開の様子

e) 矢作川未来通信

愛知県豊田市立西広瀬小学校の環境教育について、図-7のとおり取材をおこなった。この小学校では、矢作川の支流である飯野川を「昔のようにきれいで遊ぶことのできる川にしたい」という児童の願いから、1975年に飯野川清掃が始まったことが原点である。翌年からは、矢作川沿岸水質保全協議会より、児童に川の透視度測定を依頼されたことにより、現在の川の水質汚濁調査へと発展した。今日まで1日も休むことなく、2022年4月22日には、16000日に達した。学校敷地内の「清流の塔」では、毎日矢作川の透視度が掲示されており、児童たちは

「矢作川の小さな見張り番」と呼ばれている。これからの50年を担っていく小学生達のこのような取組についても、この機会に幅広く知ってもらいたいと考え、実際の調査の様子や、児童たちへのインタビューなどをまとめ、矢作川未来通信としてホームページに掲載をしている。



図ー7 西広瀬小学校生徒への取材の様子

f) 矢作ダム貯蔵酒

2020年度より、ダム堤体内に豊田市内の4つの酒蔵の日本酒を貯蔵している。矢作ダム貯蔵酒は毎年即日完売の人気商品となっているが、2021年度販売分には、図-8のとおりラベルに50周年ロゴマークを付けて特別感のあるものとした。



図ー8 2021年度に販売した矢作ダム貯蔵酒の様子

(4) コロナ禍での開催にあたり追加検討した事項

対面での説明が不要なパネル、3D模型及び映像の展示を中心とした。当初は集客施設以外にも地域のイベントに出店し、多くの方にPRする予定であったが各種イベントの中止に伴い、開催回数が少なくなった。

メインイベントである記念式典では、会場の定員575名の50パーセントである214名を客席数とし、ソーシャルディスタンスの確保を徹底するとともに、受付での消毒や検温等を実施するなど、開催地である愛知県の定める対策方針を確実に行うこととした。観客数を減らしても同様の効果が得られるよう、一般の方々を対象とした、YouTubeによるライブ配信をすることとした。

矢作ダムは愛知県、岐阜県及び長野県の3県と密接に関連していることから、記念式典への来賓の数が大勢となることが予想された。しかし、事務局としてはコロナ禍という社会情勢を踏まえ、できるだけ来賓の数を抑える必要があり、調整は難航した。2021年3月に豊田市で行われた河川関係式典（矢作川鶴の首地区水位低下対策事業 着手式）は、矢作川沿川が選挙区の議員を招待基準としていた。しかし、今回もその招待基準を適用すると想定に来賓である50名を大幅に超えるおよそ80名の規模となることが分かり、招待基準そのものを新たに考える必要があった。

3. 中止に至る経緯

2022年1月に入り、新型コロナウイルスの第6波の影響による感染者数の拡大が問題となってきた。感染者数の増加が止まらなかったため、万が一中止となった場合の対応案を決める必要が生じた。実行委員会としては、愛知県内において、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置又は県独自の行動制限を伴う要請が発信されている場合、その他実行委員会において開催を難しいと判断した場合には、記念式典を中止することとした。2022年1月20日、招待状の発送準備の最中、2022年1月21日から2月13日までの期間を対象としたまん延防止等重点措置の適用決定を受け、2022年1月28日の第4回実行委員会幹事会において中止を決定した。式典中止の判断をした背景には、愛知県豊田市や岐阜県恵那市における市主催のイベントの全中止の決定が大きく影響した。

4. 中止後の内容

式典が中止となってしまったため、代替措置として図-9のとおり50周年記念特別ホームページ（以下「特設HP」と呼ぶ）を開設した。挨拶予定だった来賓の方々からのコメントや、上映予定であった各種映像を掲載した。本来であれば、岐阜県重要無形民俗文化財である、恵那市串原の中山太鼓保存会による実演を式典にて予定していたが、事前に撮影した映像の掲載のみとなった。式典を予定していた2月から特設HPの公開をはじめ、7月現在までおよそ5300回アクセスされている。通常、矢作ダム管理所のHPは月におよそ550回アクセスされていることから、通常よりも多くの方々に見てもらえていることから、効果があったものと考えられる。

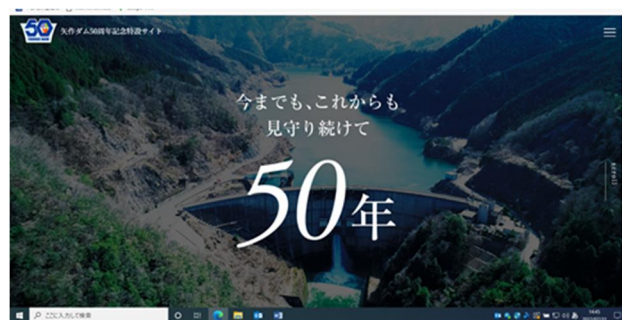


図-9 特設HPのトップ画面

また、地域主催式典として地元の小学生らと矢作ダム湖周辺に植樹をおこなう予定であったが、2021年度中に人を集めるイベントの開催は難しいと判断し、開催を見送ることとなった。なお、地域主催式典については地域振興という側面が大きいことから、矢作水源フォレストランド協議会（地域の活性化を図るために、2006年度に発足し、水源地域の2市2村を構成員としている。）と連携した開催に向けて、2022年度以降計画を進めていくこととなった。

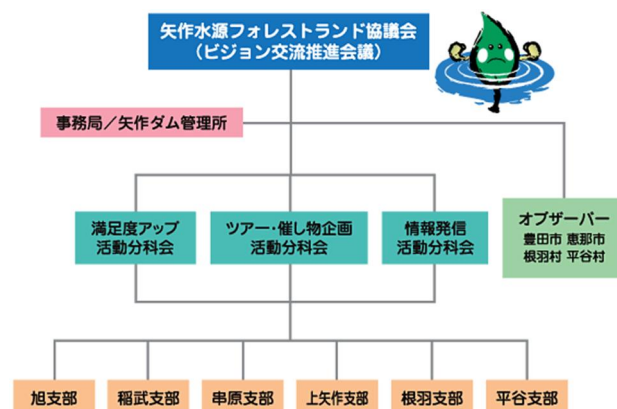


図-10 矢作水源フォレストランド協議会の組織図

また、記念式典にて配布予定であった図-11の、通常ダムカードと50周年記念ダムカードのセットの作成を続行し、ダム見学に来てくれた方々に配布し、広報に努めた。



図ー 1 1 記念式典にて配布予定だったダムカードセット

5. 51周年目に何をするか

50周年目に地域主催式典の開催を断念し、矢作水源フォレストランド協議会と連携して、進めていくこととなった。51周年目である、2022年7月6日に矢作水源フォレストランド協議会の2022年度第一回総会を実施した。今後の活動方針について話し合いをおこなったが、今年度もコロナによりなかなか思うようにイベントができない状況が続いている。こういった現状を踏まえ、地元の人達の考え方が「大きな式典やイベント開催よりも、今ある観光資源の掘り起こしや情報発信に力を入れたい」と変化してきていることから、まずは各地域でおこなっている様々なイベントを協議会内で共有及び発信し、県や市の垣根を越えて、矢作ダムと水源地域をこれから盛り上げていくこととなった。

6. さいごに

本稿では、コロナ禍における記念式典を始めとするイベントの開催について検討してきた。当初の予定通りに全てを開催することはできなかったが、人を集めないよ

うにするなどの工夫を施して、準備をすることができた。

しかし、記念式典が中止になったことに対する代替措置が、記念式典と比較すると小規模になってしまったように感じられる。コロナがなかなか終息しない現状を踏まえて、前もって代替案についても考えることができていれば、より良いものになったのではないかと考える。

今後も続いていくであろう社会情勢においても、今回の貴重な経験を活用していきたいと考える。